

飛鳥資料館のみどころ（1）

飛鳥資料館は、1970年12月の「飛鳥地方における歴史的風土および文化財の保存等に関する方策について」の閣議決定に基づき、1975年、明日香村に設置されました。

資料館は、1階に第1展示室、第2展示室が、地階には特別展示室があります。第1展示室には、宮殿、寺院、古墳、石造物、万葉集のコーナー、高松塚古墳から出土した海獣葡萄鏡などを展示した特別コーナーのほか近年、話題になったキトラ古墳の壁画の写真パネルなども展示しています。第2展示室には、山田寺東回廊の出土木材を組み立てて、在りし日の東回廊を再現しています。山田寺東回廊の建築年代は7世紀の中頃。法隆寺金堂よりも若干古いと考えられており、世界最古の木造建築といえる大変貴重なものです。

前庭には、明治時代に石神遺跡から出土した飛鳥時代の噴水である須弥山石や石人像、ユーモラスな表情で知られる亀石や奇怪な姿の猿石などのレプリカを展

示しており、さながら飛鳥の石彫美術館です。さらに、昨年には、八釣マキト5号墳の石室も移設復元しました。なお、須弥山石と石人像は館内で本物が見られません。

飛鳥探訪の折りには、ぜひお立ち寄りいただき、飛鳥の歴史や残された文化財について理解を深めていただきたいと思います。お問い合わせは飛鳥資料館（電話0744-59-3561）まで。インターネットのホームページアドレスは<http://www.asukanet.gr.jp>です。

（飛鳥資料館 西山和宏）



飛鳥資料館